

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 平成 28 年 3 月 24 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座・准教授
氏名 Name	竹原 新
専門分野 Academic Field	イラン民俗学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究
<p>平成 27 年度は、主として次の研究活動を行った。</p> <p>1. イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究</p> <p>昨年度に引き続き、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）による「イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究」（基盤研究（C）、平成 26-30 年度）を研究課題とするプロジェクトの研究代表者としての研究活動を次の 3 点を中心に行った。</p> <p>（1）イラン・イスラム共和国テヘラン州内において口承文芸に関する調査を行った。特にイランの怪談の収集に調査の力点を置いた。同時に、以前の調査における不明箇所の確認を行った。</p> <p>（2）構造化資料に関するデータの入力・整理等の作業を行った。なお、この作業においてはペルシア語の知識を有する学生の補助者を活用した。</p> <p>（3）これまでに収集した資料から呪文が含まれる事例を抽出した上で、現代イランの呪文が「祥福・増殖」と「防御・除災」を機能とする事例を中心に見られること、意志呪術を含む複数の呪術の原理が組み合わせられて成立することがあることなどを示した。この研究成果は、「現代イランの呪術」として『イラン研究』第 12 号（大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻（専攻言語ペルシア語）、2016 年）、pp. 17-42 に掲載された。</p> <p>2. イラン民話のなかの医療についての研究</p> <p>「筑波大学人文社会科学研究科比較宗教・神話研究会「医薬神の系譜」（平成 27 年 8 月 3 日、筑波大学東京キャンパス文京校舎）に参加し、「イラン民話のなかの医療」をテーマとして口頭発表を行った。この研究成果は、「イラン民話のなかの医療」として篠田知和基編『神話・象徴・儀礼Ⅱ』（楽瑯書院、2015 年）、pp. 73-87（横書き論文の部）に掲載された。この研究は、イラン民話における治療モチーフに見られる「物語」について、「物語」が持つ呪術または呪術を補助する機能に着目して論じたものである。</p>	